

時津町は「^{うちどく}家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ようじ む 2025^{ねん}年 ふゆごう 冬号



とぎつちょうりつとぎつとしょかん
発行：時津町 立時津図書館



「きれてる」
鈴木 のりたけ//作
(ポプラ社)

ふんわり^{あま}甘くて美味^{おい}しそうなロールケーキがある。ひときれきってあるけれど、もっと^た食べたいから、もう少しとっちゃおう！とおもったら、あれ、へんな^{かたち}形にきれてるよ！？次^{つぎ}はどんな^{ふう}風にきれてるのかなとページをめくるのがたのしくなります。

^{うちどく}家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「きんぎょびじゅつかん」
松沢 陽士//写真 高岡 昌江//文
(ほるぷ出版)

きんぎょってこんなにいろんな^{しゅるい}種類や模様^{もよう}があるの！？美術^{びじゅつかん}館のように並^{なら}べられた美^{うつく}しい金魚^{きんぎょ}たちの写^{しゃしん}真をじーっとみてみよう。よくみると、同じ^{おな}種類^{しゅるい}の金魚^{きんぎょ}でも模^{もよう}様が違^{ちが}っておもしろい！金魚^{きんぎょ}の名^な前^{まえ}や特^{とくちょう}徴もかいてあるから、金魚^{きんぎょ}博^{はく}士に^{かせ}なれるかも。



「まるがかけたら」
武田 美穂//作 絵
(理論社)

まるがかけたら、どんどん^{せん}線^たを足してい^くよ。すると、人^{ひと}の形^{かたち}になって、「ぼうくん」がかけたよ。ぼうくんのお願^{ねが}いをきいて、線^{せん}をかいていくと、どんどんぼうくんの世^せ界^{かい}が広^{ひろ}がっていきます。読^よんだ後^{あと}、き^えっとお絵描^かきがしたくなります。



「おんせんぽかぽか」
パト メナ//作絵 星野 由美//訳
(岩崎書店)

寒^{さむ}くなるとあったかーい温^{おん}泉^{せん}に入^{はい}りたくなるのは私^{わたし}たち人^{にんげん}間^{かん}だけではないよう^です。雪^{ゆき}山^{やま}に住^すむ、おさるさんたちが朝^{あさ}起^おきて一^{いち}目^{もく}散^{さん}にみんな^{おんせん}で温^む泉^{せん}に向^むかいます。日^に本^{ほん}が太^{たい}好^すきな外^{がい}国^{こく}人^{じん}作^さ家^かがかいたオノマト^{おもしろ}ペ^{はなし}が面^{おも}白^{しろ}い、かわいくてあ^あったかーいお話^{はなし}です。



「おまわりさんのきゅうじつ」
中川 ひろたか//文 村上 康成//絵
(Gakken)

みんなの^{あんぜん}安全^{まも}を守^{まも}っているおまわりさんは、きゅうじつ^{なに}何^{なに}をしているの？他^{ほか}にもおいしゃさんやえんちょうせんせいもおやすみの^ひ日^ひはどんなことをしているのかな？
街^{まち}で働^{はたら}く大^お人^{とな}たちの休^{きゅうじつ}日^{じつ}をのぞいてみよう。



「サンタがふたり？」
スズキ トモコ//作
(講談社)

クリスマス^ひの日^ひ。1年^{ねん}で1番^{ばん}忙^{いそ}しい日^ひを送^{おく}るのはサンタさんとケーキ屋^やのマルタさん。そんな2人^{ふたり}が思^{おも}わぬハプニングで入^いれ替^かわってしまいました。でも、2人^{ふたり}ともそれぞれの仕^し事^{ごと}が楽^{たの}しくな^なってき^きて、…。クリスマスにぴったりの2人^{ふたり}のサンタさんの物^{もの}語^{がたり}。